

■2022 年度 A 日程 一般入学試験

「小論文」問題の出題趣旨・解説

【出題趣旨】

現代の日本社会が抱える構造的な問題に関する文章を正確に読解して長文の作成を求めるものである。筆者が主張する「格差」が拡大することによりもたらされる弊害を正確に理解し、それを踏まえた上で、法科大学院で学修する法にどのような機能を営ませるべきかについての理解・認識を問うている。例えば、「賃金格差の縮小」や「所得の再分配」、「所得格差を生む原因の解消」等を達成するためにどのような法制度が考えられるかを、明確に、根拠をもって、論理的・説得的に述べることが求められる。

【解説】

1 解答にあたっての注意事項と解答方法について

解答にあたっては、問題表紙に、①解答の訂正方法（斜線又は横線での消去と次のマス目からの書き直し）、及び、②記入方法（記入欄・横書き）が指示されており、当然それに従った解答が求められる。

この指示に従っていない場合、例えば、訂正した同じマス目の中に訂正後の解答を書いたり、解答欄外に訂正後の解答を書くなど、指示に従わずに解答を訂正している場合は、その部分は記入がないものとみなすなどして採点を行った。

また、誤字・脱字は言うまでもなく日本語能力の問題であり、採点基準に含めている。

2 〔問〕について

筆者は「格差」の拡大がもたらす弊害として、「死亡率の上昇」、「社会保障支出の増大」、「莫大な人的資源の損失」を指摘する。そして、「格差」が拡大すると何故、死亡率が上昇し、人的な資源が失われるのか、その理由が説明されている。これら弊害をもたらす「格差」を縮小するために法が果たすことのできる役割について、弊害が生ずる理由を踏まえて説明されているか、読みやすくわかりやすい正しい日本語の文章で表現されているか等を基準として採点している。

以 上